

原子力発電所環境放射能測定結果（平成25年度第4四半期）について

平成26年6月4日
福島県放射線監視室

福島県が平成25年度第4四半期（1～3月）に実施した原子力発電所周辺の環境放射能測定結果は以下に示すとおりであり、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による影響を受けた空間線量率や環境試料については、一部で事故前の測定値の範囲を上回っているものがあります。

1 空間放射線

(1) 空間線量率

震災前からモニタリングポストを設置している23地点の内、津波による流出や停電の影響で測定を実施していない5地点を除く、18地点でNaIシンチレーション検出器及び電離箱検出器による常時測定を実施しました。

各測定地点の月間平均値（117～13,038 nGy/h）は、全地点で事故前の測定値の範囲を上回っていますが、全体として日数の経過と共に減少する傾向にありました。

また、地表に沈着した放射性セシウムからの放射線が大雪による積雪によって遮へいされたため、2月の月間平均値に低下が見られましたが、3月の月間平均値は積雪前の月間平均値近くまで戻っています。

(2) 空間積算線量

合計64地点で蛍光ガラス線量計による空間積算線量の測定を実施しました。

各地点の90日換算値（0.18～46.44 mGy/90日）は、事故前の測定値の範囲を上回っていますが、前回の測定値と比べると低下する傾向にあります。

2 環境試料

(1) 大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能

4地点で全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を実施しました。

各測定地点の月間平均値（全 α 0.008～0.025 Bq/m³、全 β 0.025～0.057 Bq/m³）は、ともに事故前の測定値と同程度でした。

(2) 核種濃度（ガンマ線放出核種）

大気浮遊じん、降下物、上水、海水、海底沈積物、松葉の140試料について、核種濃度の調査を実施しました。

上水を除いた多くの試料から事故前の測定値を上回るセシウム-134及びセシウム-

137が検出されました。また、一部の海底沈積物からコバルト-60が検出されました。

(3) 核種濃度 (トリチウム)

上水、海水の30試料について、調査を実施しました。

上水の9試料からトリチウムが検出されましたが、事故前の測定値と同程度でした。また、海水の6試料からトリチウムが検出され、うち1試料で事故前の測定値を上回りました。

(4) 核種濃度 (ストロンチウム-90)

海水18試料、海底沈積物6試料について、調査を実施しました。

このうち、海水の全試料と海底沈積物の2試料からストロンチウム-90が検出されました。

(5) 核種濃度 (プルトニウム)

海水18試料、海底沈積物6試料について、調査を実施しました。

このうち、海水の7試料と海底沈積物の全試料からプルトニウム-239+240が検出されましたが、事故前の測定値と同程度でした。

この報告書は、平成26年6月4日に開催された「福島県原子力発電所の廃炉に関する安全監視協議会 環境モニタリング評価部会」において、平成25年度第4四半期（平成26年1月～平成26年3月）の調査結果について検討された内容をとりまとめたものです。